

凡 例

1 「グレート・ワークス」について

本書は、開国（1854）以後、近年までの日本において、思想または学問の分野で顕著な活躍を示し、その業績が「全集」「選集」等の個人著作集として残されている人物41人を取り上げ、当館の所蔵資料により、彼らの著作集を「グレート・ワークス」として概観するとともに、著作者の人物像及び参考文献を紹介するものである。なお、「グレート・ワークス」great works は、英語の名詞「グレート・ブックス」great books（古典・名著の意）をヒントに今回の編集にあたって考案したことばで、グレート・ブックスが個別の名著を指すのに対し、価値の高い著作集（works）という意味を含ませた。

グレート・ワークス選定の基準は、近現代の日本で「その言論が時代の思潮形成に大きな影響を与えた人物」または「その学問的探求が内外の高い評価を得た人物」の個人著作集とした。ただし、選定する人物は2003年（平成15）9月の時点での物故者に限定し、文学及び芸術の分野における創作作品を主とする著作集、並びに自然科学分野の著作集は選定の対象としなかった。実際の選定にあたっては、思想史・研究史関係の全集・叢書・事典・単行本を参考にして、バランスを考慮しつつ、なるべく幅広い領域から人物を選ぶように心がけた。選定に用いた資料は巻末の参考文献リストに掲げてある。

また、41のグレート・ワークス以外に当館が所蔵する思想・学術系の主な著作集についても、283点を「その他の主な著作集一覧」として本編の後に付した。これもグレート・ワークスと同様の時代及び分野から選んだが、現在活躍中の著作者のものも対象とし、自然科学系も若干含まれている。

2 構成

（1）本編

グレート・ワークスは、「明治期」「大正期」「昭和前期」「昭和後期」の時代区分の下に、各著作者の生年・活躍時期・分野・関連等によって配列した。その上で見開き2ページに1人の人物を配し、下記の項目により記述した。

【人物紹介】

- ・姓名とその読み 西暦生没年（太陽暦導入以前の生年は、旧暦生年月日を太陽暦に換算して太陽暦の年を表記。旧暦の年末は太陽暦ではその翌年になる）
- ・肩書と異名（異名はすでに定着しているものはそれを用いたが、新たに考案したものもある）
- ・出生（生年月日、出生地のほか、親や家庭環境等について）
- ・履歴（学歴・職歴・海外生活等、主として外面的な事実について）
- ・事績（思想や学問の形成とその内容、業績、活動、影響力等について）
- ・評価（ある程度確立した客観的な評価を公平に紹介する）
- ・代表作（主著のほか話題作等も。著作集に収録されていないものを挙げることもある）
- ・キーワード（その人物と結びついた学説・概念・名言・スローガン等）
- ・エピソード（その人物に関する興味深い逸話等）

- ・神奈川（その人物と神奈川県のかかわりについて）
- ・最期（没年月日、死因、死没地。享年は満年齢で月数を切り捨てて表記）
 - *「キーワード」～「神奈川」の項目は省略される場合もある。

【著作集の内容紹介】

- ・Great Works 番号、著作集タイトル、巻数、出版社、出版年、当館請求記号（巻数は別巻や補巻を含んだ総巻数。請求記号は< >内の数字）
- ・解題（その著作集の特色、出版の事情、編集者等について説明）
- ・内容（1巻ごとに収録著作を紹介。各巻にタイトルが付けられている場合は、「巻次＝各巻タイトル」のかたちで記載。著作名のあとの[]内は出版社・出版年等の注記。「代表作」に挙げられた著作はゴシック体で表示）

【参考文献 この人をもっと知るために】

その人物について、当館が所蔵する文献を、<図書>、<図書(部分)>、<雑誌論文>の項目で紹介する。図書の記載項目は、タイトル、著者、出版社、出版年、ページ数、請求記号、資料番号である。<図書>のタイトルの後の()内はシリーズ名（例：岩波新書）、<図書(部分)>の著者名の後の()内は、図書本体のタイトル名である。雑誌論文の記載項目は、タイトル、著者、雑誌名（発行所）、巻号、発行年月、雑誌請求記号である。

(2) コラム

本編各時代の最終ページに、グレート・ワークス関連のコラムを付した。

(3) その他の主な著作集一覧

著作者の専門分野または肩書による部門を設定し、各部門内は生年順に配列した。記載項目は、一連番号、著作集名、巻数、肩書等（生没年）、出版社、出版年、当館請求記号である。巻数に付した「*」は欠本があることを、生年に付した「*」は異説があることを、それぞれ示す。また、出版年は初回配本の年を記した。

(4) 著者名索引

グレート・ワークス及び「その他の主な著作集」の著者を一括して姓名の50音順に配列し、GW番号または著作集一覧の番号を付した。

3 その他

- ・人物、地名等に関するデータは2003年現在のものを用い、判明したものについては2004年3月の最新情報を補った。地名は今後の市町村合併で変更されるものが多いと思われる。
- ・年の表記は原則として西暦を用い、必要に応じて元号による表記を補った。ただし、太陽暦採用以前、すなわち明治4年以前については、西暦年とのずれが生じることがあるため、和暦の表記で統一し、それに対応する正確な西暦年を補記した。
- ・漢字は原則として新字体を用いたが、固有名詞等の一部は旧字体のままとした（例：柳田國男、丸山眞男等）。なお、図書等の書名・著者名などについては、その表記のとおりとしたので、同一名称でも新字・旧字が混在することがある。
- ・図書・新聞・雑誌のタイトルは『 』、論文・記事等は「 」で表した。